

(A) 旧年度の事業報告

■人工社会調査研究会

設置期間	2009年9月～2011年8月	
幹事学会	計測自動制御学会	
主査	倉橋 節也	(筑波大学、計測自動制御学会)
副主査	船橋 誠壽	(日立製作所、計測自動制御学会/システム制御情報学会)
幹事	高橋 大志	(慶應義塾大学、計測自動制御学会)
委員	高橋 真吾	(早稲田大学、経営情報学会)
	寺野 隆雄	(東京工業大学、日本シミュレーション&ゲーミング学会)
	鳥山 正博	(野村総合研究所、経営情報学会)
	小野 功	(東京工業大学、計測自動制御学会)
	山下 泰央	(中央三井アセット信託銀行、経営情報学会)
	木村 英紀	(理化学研究所)

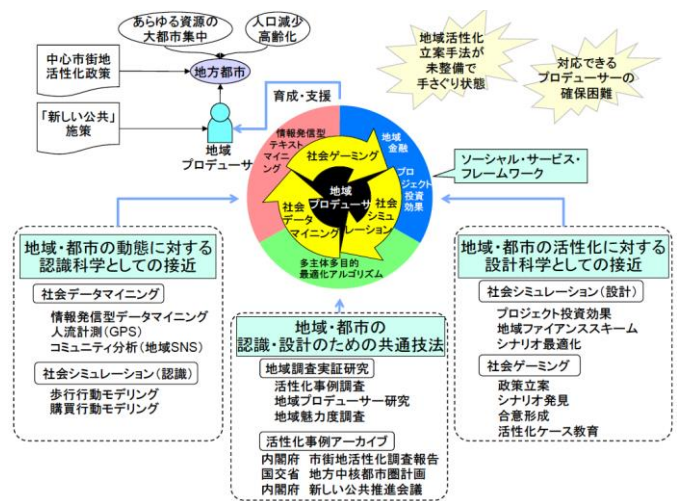
本調査研究会の目的は、社会を構成するミクロな要素としての人間・企業・組織と、社会のマクロな構造を、マルチエージェント技術を用いて人工社会としてモデル化することで、実社会に存在する複雑な問題の解決を目指したフレームワーク構築を行うことにある。2011年度は、横幹コンファレンスでのオーガナイズドセッション開催と、科学技術振興機構 社会技術研究開発センターによる、問題解決型サービス科学研究開発プログラムの調査研究の成果に基づいて、2011年度の公募活動を主に実施したが、こちらの結果は不採択となった。

1. 人工社会研究をベースとしたサービスサイエンス調査研究

調査会主要メンバーが他の研究者と連携し、浜田市、高松市、高知市を実施場所とする「ソーシャル・サービス・フレームワークに基づく地域・都市活性化のためのサービス科学研究」の申請を行った。

提案メンバーとして、寺野（東工大）、船橋（横幹）、兼田（名工大）、吉田（筑波大）、板倉（香川大）、小野（東工大）、高橋（慶応大）、山下（中央三井）、倉橋（筑波大）、津田（筑波大）、望月（大阪教育大）、高橋（群馬大）、石橋（名古屋産業大）、倉増（香川大）等が参加し、他に、島根県浜田市、香川県高松市、高知県高知市の各現地協力者との連携で提案を行った。

しかし、残念ながら、採択にはならなかった。理由は、サービス研究として大事なテーマではあるが、内容が多岐にわたっており、具体的に解明する対象、実現性、成果の横展開が必ずしも明確ではない、とのことであった。内容を吟味し、今後の活動を続けることで、活動を総括した。



2. 人工社会調査研究

以下の講演会を実施した。

2011年8月31日 東京電機大学 佐々木良一先生
多重リスクコミュニケーターと意思決定支援

また、第4回横幹コンファレンスで、オーガナイズドセッション「人工社会が示す社会モデリングの科学」を開催した。

講演者名：斎藤宗香、倉橋節也（筑波大学）

講演題目：製品普及と消費者間ネットワーク構造の関係

講演者名：森敬子 倉橋節也（筑波大学）

講演題目：エントリー記録から分析する新卒者就職市場

講演者名：高橋大志（慶応大学）

講演題目：エージェントベースモデルによる金融市場分析：投資制約下におけるパッシブ運用の有効性

講演者名：青島親年，高橋真吾（早稲田大学）

講演題目：サービス業組織における知識探索支援システムの効果分析

講演者名：越山修、寺野孝雄（東京工業大学）

講演題目：ビジネスゲームの参加者行動分析

講演者名：小林 知巳、寺野孝雄（東京工業大学）

講演題目：組織逸脱と改善の分岐条件とハーネシング

（B）新年度の事業計画 -----

■人工社会調査研究会

2012年度に新たな活動を開始する方向で、検討中である。